

1963

シリーズ
とやま20世紀

昭和38年1月16日(水)

記録的な積雪量で県民生活を直撃

サンパチ

38豪雪

この年の1月、日本付近は冬型の気圧配置が続き、県内は中旬から激しい雪となった。1月16日、富山地方気象台は大雪警報を発令、雪は25日頃をピークに月末まで降り続き、最深積雪は富山で186cm、伏木で225cm。国道や国鉄が長期間不通となり、生鮮食品の入荷が途絶えるなど、県民生活は大きな影響を受けた。連日除雪作業に追われた人々は、冬季交通確保の重要性を痛感し、その後、道路除雪の機械化や消雪パイプの整備など克雪対策が進展する契機となった。今では、雪の季節も交通は大きな混乱もなく確保され、雪は、克服するだけの対象から、レクリエーションなどの機会や観光資源として利用し親しむ対象にもなってきている。38豪雪は、「克雪」から「利雪」「親雪」と連なる富山県の総合雪対策の原点ともいえる出来事であった。

